

特集

～一部事務組合東河環境センター

議会から活動レポート～

エコクリーンセンターの延命 総事業費は約31億7400万円に

化工事が始まります

河津町と共同で運営するエコクリーンセンターは完成から今年で15年目を迎え、施設主には2基ある焼却炉を新設する工事です。工期は平成31年度までの3カ年で、総事業費は約31億7400万円を見込んでおります。今回の特集は、東河環境センター議会の活動レポートと工事概要について報告いたします。

の老朽化に伴う延命化工事を今年度より着手することとなりました。今回の特集は、東河環境センター議会の活動レポートと工事概要について報告いたします。

一部事務組合東河環境センター議会とは？

一部事務組合東河環境センター議会は、東伊豆町・河津町が施設を共同運営するための予算や取り決めごとを、公の場で審議・決定するための機関です。両町の町議会からそれぞれ3名選出し、6名の議員で構成されています。

検討の結果「水噴射方式」に決定

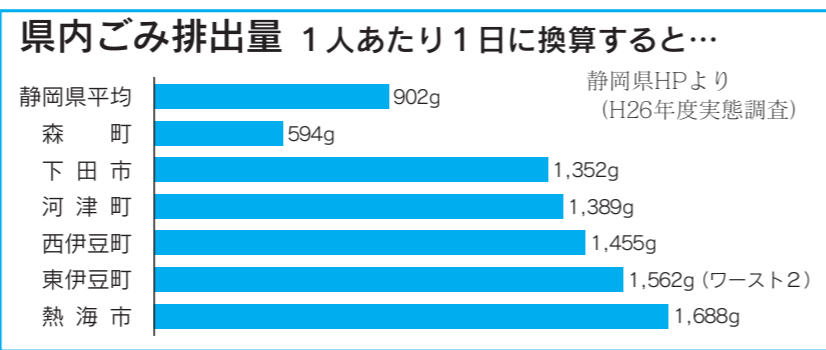
東河環境センター議会は、施設延命化の工事を決定するまで議論、陳情を繰り返してきました。(右ページの表参照)。
当初、補助率で有利とされた「ボイラー化方式」は、24時間連続燃焼となるため人員5名の増加(現在9名→14名)を要し、人件費等のランニングコストが高くなることから、結果的に現在と同じ「水噴射方式」での改修に決定しました。これによって工事費が概算35億円から31億円台へ数億円の削減となり、また向こう15年間の施設維持費は安くなる見通しとなりました。

なお、今般の大規模改修事業では技術的見地から、県から出向された技術者1名がエコセンターに常勤していただいております。

ごみの減量化にご協力ください！～施設を長持ちさせるために～

現在、エコクリーンセンターのごみ処理に係る費用は年間4億6308万円です。町民1人あたりでは43万円8040円もの負担となり、他自治体と比べ非常に高い数字となっています。これは観光などの産業構造が大きく影響していることも大きな要因の一つです。

ごみを減らすことは、焼却施設の延命化にもつながります。将来の負担を少しでも減らせるよう、生ごみ処理機やコンポストの購入、リサイクル分別の徹底など、ごみの減量化に、ご理解とご協力をお願いします。



これまでの経緯

日付	経過内容(一部)
平成25年10月23日	東河環境センター施設整備等推進委員会が施設の延命化工事をボイラー化方式で行うことを決定
平成27年7月29日	全員協議会で両町の負担割合の決定⇒東伊豆町59.35%：河津町40.65% 国の交付金についての説明 現行の水噴射方式→3分の1 ボイラー化方式→2分の1(国の補助金見直しで3分の1になる公算)
8月24日	環境大臣に「補助率2分の1」を陳情
平成28年2月19日	第1回定例議会…施設改修に関する見直しを当局に口頭申し入れ
5月26日	環境省、財務省などへ陳情
6月29日	第1回臨時議会…延命化工事資料および資金計画など提示
9月29日	第2回定例議会等…ボイラー化方式の見直し提示あり
10月24日	第2回臨時議会…ボイラー化方式から水噴射方式(現行と同じ)へ変更を承認。 補助金率2分の1に決定
12月20日	第3回臨時議会…工事概算総額 31億7422万円
平成29年2月24日	第1回定例議会…29年度予算承認。エコセンター延命化工事決定

水噴射方式のしくみ

